

10年後の自分と、京都のまちの、
ミライとモンダイを考える。
京都市基本計画審議会

U35のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

傍聴記

vol.13

共汗部会 第3回活性化部会

(「産業」「観光」「行政経営」分野)

主な議事: 分野別方針<行政経営の大綱>の検討

開催日: 平成22年2月3日(水)

会場: 消防局本部庁舎



レポーター 簡 吟馨さん

2005年台湾師範大学文学部地理学科卒業。

2002~2003年立命館大学交換留学。

2005~2007年台湾NEC株式会社。

2008年京都大学経済学部研究生。

2009年京都大学経済学研究科

会議のポイント

POINT 1.

赤字が出た京都市の財政

● 借金時計 ●



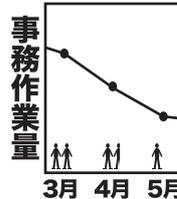
● 1人あたり ●



京都市の財政状況が赤字だということを、全市民は理解しているのでしょうか。財政基盤が弱い、交付税への依存度が高いなどの問題が存在しています。そうした現状を解決するために、むやみに増税することはいけません。市民全員がこの危機感を感じて、市のために共にこの問題を解決するべきです。

POINT 2.

事務事業評価の重要性



事務事業評価など、評価の仕組み作りは大切なことです。数値化していくことで、行政の成果を均一な尺度で検証して比較することができます。評価表を見ると、役所はどういう仕事をしています、人件費も含め、どれだけの予算を投入しており、その上で数値目標として1年後2年後にはこういうところまでこの数字を持っていく、といったことがわかるようになっていきます。

この会議を傍聴して、 簡さんが思ったこと。

今回の会議は行財政改革の取組を中心に議論していました。学生として普段はあまりなじみのない課題です。今回の会議で一番驚いたことは、京都市の財政状況がこんなにも悪いのかということです。京都には、毎年5千万人も観光客が訪れます。数だけを見ると、観光収入だけでも十分のような気がするのですが、現実とは違います。平井委員はその問題を解決するために、市民参加と行政評価が少しでも連動するシステムを作ってはどうか、という提案をされました。私はその提案に賛成です。市民が市政に関心を持ち、関わっていくことで、市への貢献意欲が上がっていくのではないのでしょうか。財政問題は市民と行政の協力によって解決できると思います。

私ならこうする！ 未来の京都に向けた簡さんの提案

今回、地下鉄の赤字問題が議論の中心となりました。東京や大阪の地下鉄と比べ、なぜ利用者数がこんなにも少ないかという問題が出てきました。私自身、地下鉄を使うことに不便を感じます。京都の地下鉄は、東京や大阪と比べて密集していません。値段も高く感じます。地下鉄と比較したら、バスの方が使いやすいです。観光客にとってもそうではないかと思います。京都に来て、一箇所でも多くのところをまわりたいと考えていると思います。一日500円の市バス券を使う人は多いと思います。この状況下で、地下鉄はどう生き残るのか、市バスと阪急、京阪などの私鉄、JRと組み、利用者に魅力的な提案を出してはどうでしょうか。

U35については、こちらをご覧ください。⇒ <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000071812.html>

今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

発行:京都市 編集:未来の担い手・若者会議U35

